

余戰中戦後の五年間を草深き片田舎に祖父母とともに過ごせり。祖父母浄土眞宗の信者なれば家族打ち揃ひて正信偈を誦すること屢なりき。余幼少より正信偈のレコードに親しみたれば行譜にて唱することを得たり。中學生の頃は既に正信偈、和讃ともに諳んぜり。和讃の「光雲無碍如虚空」の一句を特に好み、ここにかかるとき常に精神の高揚を覚えぬ。

長じて、大無量壽經百遍誦すれば他人の痛みを覺ゆるを得と聞く。その眞偽を驗さんとて築地の本願寺に走り、浄土三部經を求む。大無量壽經は三部經の一にして、南無阿彌陀佛を唱ふる者は悉く救ひて極樂浄土に往生せしめんと阿彌陀佛の誓願を説くものなり。讀經百回に及ぶも更に驗なし。されど讀經釋迦牟尼佛の請ひに應じて阿彌陀佛姿を現す箇所にかかる度に戦慄にも似たる感動を覚えぬ。やがて何故にか法華經を讀まばやとの抑へ難き想ひ起る。

されど二十八品揃ひたる勤行用の經典はづくにもなし。上野、浅草の書肆、佛具店、池上の本門寺、創價學會、立正佼成會に徒に足を運びぬ。遂にさる佛具屋のありて京都に法華經専門の店あればとて電話番号を告ぐ。幸ひ昭和天皇即位記念の出版にかかる在庫あり。

法華經は大部にして一日平均二品讀誦するも凡そ二週間を要す。燈明を上げ線香を焚き鉦を鳴らして讀經三昧數年に及びぬ。やがて傍らに今一人誦しあるを知るに至る。全身氣に充ちて聖なる次元に連なるを覺ゆ。靈的存在の來たりて經を聽くと言ふは強ち偽りとも思へず。眞の法華經はアストラル次元のいづくかにありて、眼前の法華經はそのコピーに過ぎざるものなるべし。

世に多くの者、キリスト教またはイスラームに比し佛教の近寄り難きはその經典漢文にして難解なるによると言ふ。そは誤りなり。讀經の功德は誦すること自體にありて、これにより聖なる次元と連なることにあり。この事實は讀經修行をなせる者にあらざれば容易に理解し難きところなり。

最近歐米より傳はりしものにガイドッド・メデイテーションなるものあり。そは瞑想にあたりへッドフォンを用ゐて觀想のガイダンスを受くるものなり。勿論瞑想の座にて師口頭にて導くこと可能なれど瞑想状態の安定を保つにはかかる仕組みもまた良しとすべし。往時科學技術のなかりしとき寺院にてかかる仕組みに代はるものとして用ゐられたるは經典なりき。經典を暗記しその導きに従ひて觀想を行はば極めて高き境地に進むことを得。寺にて小僧讀經に明け暮れたりしは故なきに非ず。

余法華經を讀むことを歇めて久し。今はチベット語の讀經を以て毎日の勤行となす。意味は深く解せざれども一向に氣にせず。氣の全身に充つれば心身の淨化進むこと疑ひなし。